



災害 -地震-

帯広市で想定される地震

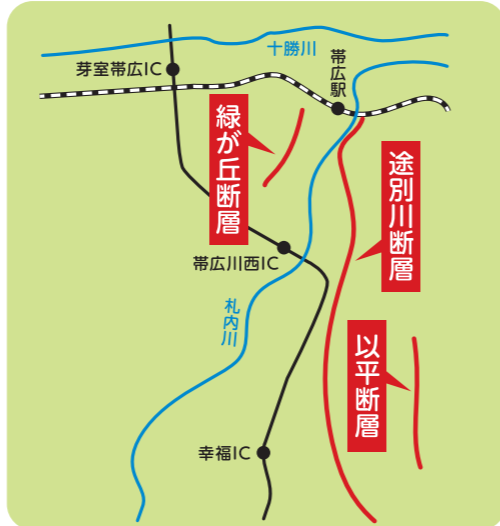
地震は発生場所によって「断層型地震」と「海溝型地震」があります。それぞれ発生確率は異なりますが、帯広市に大きな揺れをもたらす可能性があります。

断層型地震

帯広市内にも、十勝平野断層帯主部を構成する緑が丘断層や途別川断層、以平断層などの活断層が存在していると言われており、比較的狭い範囲で大きな被害が出る内陸型地震の発生に備えることが必要です。

活断層による地震の被害が及ぶ範囲は、活断層線の上部だけではなく、活断層の地下での広がりや周辺の地盤が大きく影響を受けるため、被害が広範囲に生じます。

●帯広市の活断層



活断層は「都市圏活断層図「帯広」(平成14年10月):国土地理院」に基づく

海溝型地震

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震が発生した場合、沿岸部では、津波による甚大な被害のほか、帯広市でも大きな揺れによる被害が発生する可能性があります。

巨大地震の発生確率

●断層型地震

十勝平野断層帯主部を震源とする地震
(帯広市の地震の被害想定モデル)

- ・30年以内にマグニチュード8程度の地震が発生する確率は0.1~0.2%

(出典:地震調査研究推進本部 地震調査委員会 令和4年1月)

- ・帯広市の想定最大震度は震度7

(出典:北海道地震被害想定 平成30年2月)

●海溝型地震

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震

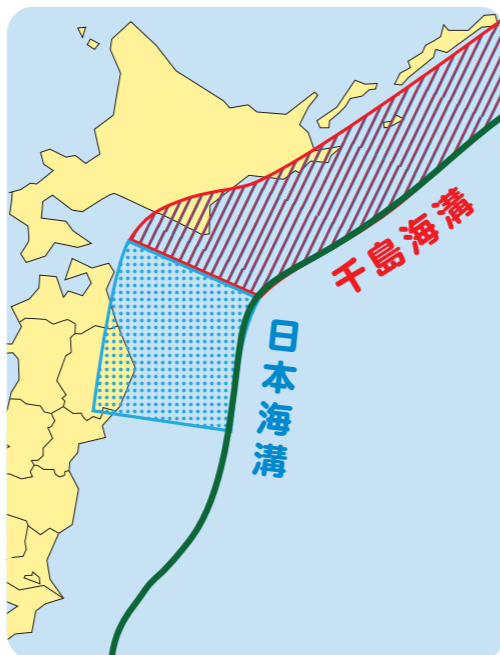
- ・30年以内にマグニチュード8.8程度以上の地震が発生する確率は7~40%

(出典:地震調査研究推進本部 地震調査委員会 令和5年1月)

- ・帯広市の想定最大震度は震度6弱

(出典:日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会 令和4年3月)

●想定される巨大地震の震源域



災害 -地震-

地震の揺れと想定される被害

地震の揺れが大きくなると、高いところからの落下物によるけがや歩行(移動)も困難になるおそれがあります。頭を隠すなどの身を守る行動が最も大切です。

地震の震度(気象庁震度階級)



震度0

人は揺れを感じない。



震度1

屋内で静かにしている人の中には揺れをわずかに感じる人がいる。



震度2

屋内で静かにしている人の大半が揺れを感じる。



震度3

屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。

震度4

- ほとんどの人が驚く。
- 眠っている人のほとんどが目覚めます。
- 電灯などの吊り下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置き物が倒れることがある。



震度6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、傾いたりすることがある。



震度5弱

- 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



震度6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



震度5強

- 物につかまらなさと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が倒れることがある。



震度7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。



上記は、ある震度の観測時に、その周辺で発生する現象や被害の目安を示しています。